

【5】インシデント事例からの注意喚起

平成 31 年 1 月の院内インシデント報告事例の中から、医薬品を安全に使用するために注意すべき事例などを挙げています。

ビグアナイド系経口血糖降下剤の適正使用について

ビグアナイド系経口血糖降下剤は、乳酸アシドーシスを引き起こすことが知られており、過去には死亡例も報告されています。乳酸アシドーシス発症症例に多く認められた特徴を以下に示します。

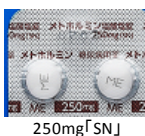
- (1) 中等度以上の腎機能障害患者（透析患者を含む）
- (2) 重度の肝機能障害患者
- (3) ショック、心不全、心筋梗塞、肺塞栓等心血管系、肺機能に高度の障害のある患者
及びその他の低酸素血症を伴いやすい状態
- (4) 重症感染症、手術前後、重篤な外傷のある患者
- (5) シックデイ、脱水症、脱水状態が懸念される患者
- (6) 過度のアルコール摂取
- (7) ヨード造影剤との併用
- (8) 高齢者

特に、(7) ヨード造影剤との併用については、ビグアナイド系経口血糖降下剤の添付文書において「ヨード造影剤を使用する場合は、一時的に中止（緊急時を除く）する」と記載されており、日本糖尿病学会から発出されている「メトホルミンの適正使用に関する Recommendation」においても、腎機能に応じた休薬が勧告されています。ヨード造影剤の使用前後は、ビグアナイド系成分を含む薬剤の使用がないか十分に確認してください。

また、肝・腎機能障害を有する患者、高齢者に投与する場合には、定期的に肝・腎機能を確認し、慎重に投与するようお願い致します。

近年、経口血糖降下剤は配合剤が多く発売されるようになり、メトホルミンを含む配合剤も多数存在します。現在、薬価収載されているビグアナイド系成分を含む経口血糖降下剤についてまとめ、一覧表を作成しましたのでご参照ください。なお、当院非採用薬は灰色のセルで示しています。

表. ビグアナイド系経口血糖降下薬一覧

分類	商品名	一般名	外観
単一成分	メトグルコ錠250mg	メトホルミン	
	メトグルコ錠500mg(院外)		
	グリコラン錠250mg	メトホルミン	
	メトホルミン塩酸塩錠 (後発医薬品)	メトホルミン	
			
			
			
			
			
			
			
			
			
			
			
			
			
			
			
			
			
			
			
配合剤	ジベトス錠50mg	ブホルミン	
	ジベトンS腸溶錠50mg		
	イニシク配合錠	アログリプチン/メトホルミン	
	エクメット配合錠HD	ビルダグリプチン/メトホルミン	
	エクメット配合錠LD(院外)		
	メタクト配合錠HD	ピオグリタゾン/メトホルミン	
	メタクト配合錠LD(院外)		
	メトアナ配合錠HD(院外)	アナグリプチン/メトホルミン	
	メトアナ配合錠LD		

【禁忌】
(1)次に示す状態の患者
〔乳酸アシドーシスを起こしやすい〕

- ①乳酸アシドーシスの既往
- ②中等度以上の腎機能障害
- ③透析患者(腹膜透析を含む)
- ④重度の肝機能障害
- ⑤ショック、心不全、心筋梗塞、肺塞栓等心血管系、肺機能に高度の障害のある患者及びその他の低酸素血症を伴いやすい状態の患者
- ⑥過度のアルコール摂取者
- ⑦脱水症、脱水状態が懸念される下痢、嘔吐等の胃腸障害のある患者

(2)重症ケトーシス、糖尿病性昏睡又は前昏睡、1型糖尿病の患者

(3)重症感染症、手術前後、重篤な外傷のある患者

(4)栄養不良状態、飢餓状態、衰弱状態、脳下垂体機能不全又は副腎機能不全の患者

(5)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人

(6)本剤の成分又はビグアナイド系薬剤に対し過敏症の既往歴のある患者

【重要な基本的注意】

乳酸アシドーシスを起こすことがあるので、検査前は投与を一時的に中止すること(ただし、緊急に検査を行う必要がある場合を除く)。ヨード造影剤使用後48時間は投与を再開しないこと。なお、投与再開時には、患者の状態に注意すること。

※採用薬 ☐ 非採用薬 ☐